Listen to the towns!
聞こえませんか、まちの声が。

まちは実にいろいろな表情をもっています。
窓を開けると潮風が薫る丘、
下駄の音が軽やかにひびく路地。
子供達のあいさつが明るくゆきかう通学路、
囲碁まりに老人たちの憩いをうつす公園。
都会であっても田舎であっても
まちにはそれぞれの顔があります。
あなたの住んでるまちはどんな表情を
していますか。
あらためて思い返して下さい。
誇らしげに輝いているでしょうか?
眠そうな顔をしていませんか?
少し淋しげな影はありませんか?
そんな時「なんとかしたい」という気持ちが
あなたの心の中に湧いてきませんか。

「まちづくりって何?」って聞かれた時
あなたは何と答えますか。
何がまちをつくるのか、どうすればまちが
できるのか。
あまりにも漠然とした問に、きっと誰もが
首を傾げてしまうでしょう。
わたしたちはこう考えます。
それは「自分のまちに夢を持つこと」
そして「その夢を言葉にして語り合うこと」
人間ひとりひとり求める価値は違います。
そして求める夢も違います。
しかし
それぞれが夢を自由に語り合うことに
よって実現の方法や手段が見つかるのでは
ないでしょうか。
その自由な想いがまちの表情を変え
やがて新しい顔をつくってゆくのだと
私たちは信じます。

まち towns!

NO.2
発行者
財団法人まちづくり市民財団
阿部芳三

〒102 東京都千代田区平河町2-14-3
日本青年会議所会館内
TEL.03-3234-2607
FAX.03-3265-2409

応援します。すてきなまちづくり。

お役に立ちます あなたのまちで

〝聞こえませんかまちの声が〟今、あなたのまちでおこなおうとしているまちづくりに私たちが応援します。

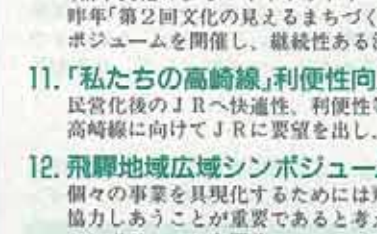
1991年10月に設立された〝財団法人まちづくり市民財団〟は全国のまちづくりに関する研究・提案を行い、又、まちづくりの為の市民運動の助成をしています。

〝地方の時代〟と言われながらも、東京への一極集中、政令都市への集中が進んでいく中で、それぞれのまちの真の価値観、他と比較できないオリジナリティーが求められています。

市民主導型の夢と先見性のあるまちづくり。市民自らが参加し真の豊かさを実感できる個性的な地域社会が求められております。

〝我がまちをなんとかしたい〟そんな声に応えるべくこの財団は設立され、活動を展開しております。

実質2年目の本年度は、英国へのグランド・ワーク/トラスト視察団の派遣、まちづくりサロン(勉強会)の実施、全国まちづくりデザイン会議第2回連絡会議の開催、また、助成事業では、助成総額を600万円に拡大し、各地におけるまちづくり運動に携わっている皆様のお役に立つべく事業を展開してまいりました。地域の人々が地域の中で生き生きと生活できる、そんな〝素敵なまちづくり〟のためにこの財団を活用していただきますことをお願いいたしますと共に、当財団がますますその規模を拡大し、より多くのまちづくり運動に対し支援ができますよう多くの方々に会員になって頂きますことをお願い申し上げます。



決定!! 平成5年度第2期助成金交付事業

平成5年度第2期の助成金交付事業が決定しました。
たくさんの御応募ありがとうございました。
全国のそれぞれの地域で、それぞれの人たちが、自分の地域(まち)を良くしようと真剣にまちづくり運動に取り組んでおられます。
どの事業もとても意義のあるものばかりでしたが、財団選考委員会が厳正に検討した結果、次の14件に決定致しました。

1. **四季園「にしおおた」**(西大田集落じまん推進協議会:広島県世羅郡世羅町) 300,000円
西大田地区の自然、歴史、文化、産業を見つめ直し豊かな地域づくりに努める。特に地域産品の開発育成を図り住民の生き甲斐づくりに努める。

2. **第7回おいしい水探検隊**(「おいしい水探検隊」実行委員会:滋賀県坂田郡米原町) 100,000円
淀川の源流、米原町醒井の「醒井の清水」を探検し、「冷たくて、おいしい水」を知ってもらうことにより水環境の保護啓発を図り、歴史や文化、環境の良さの再認識をする。京阪神に住む親子を対象に募集し地域住民と交流を図る。

3. **ほとけの里・国東半島神楽大会**(安岐郷土芸能保存会:大分県東国東郡安岐町) 100,000円
伝統ある民俗芸能お神楽と新しい創作太鼓の技術修得に研鑽し、今年、会発足20周年にあたることから記念事業として「神楽大会」等を開催し、郷土芸能の再確認と理解を深めることを目的とする。

4. **在宅重症心身障害者の東京ディズニーランド旅行実施**(天使の翼会:高知県高知市) 300,000円
高知青年会議所がすべての人に優しいまちづくりの運動の一環として提案したものを「天使の翼会」として発足させた。医師、看護婦、介助等多数の助力が必要であるが、市民ボランティアで昨年に引き続き旅行を実施する。

5. **ふるさと塾**(山中ハートランド倶楽部:石川県江沼郡山中町) 200,000円
山中という町にもっと興味を持ち、普段目にしながら気付かない様々な山中の財産の由来や意味を楽しく学ぶことにより、山中に対する興味や愛情を呼び起こし、誇りをもって情報発信ができるひとづくりを目的とする。

6. **'93くしきの市民フォーラム**(㈳串木野青年会議所:鹿児島県串木野市) 100,000円
4回にわたる基調講演、パネルディスカッション、市内視察等を通して地域の現状や問題点を確かめながら、まちの将来の方向性を見出す。市民会議の設立を目指す。

7. **安城市民会議/油ヶ淵浄化運動**(安城市民会議:愛知県安城市) 100,000円
4年目を迎えた市民会議の存在をPRすると共にまちづくりの一助とする。市民会議メンバーを募集し、テーマ別に3つの小委員会に分け各10回の会議を開催する。

8. **長浜市水生生物少年調査隊発表会**(長浜市水生生物少年調査隊指導連絡会) 100,000円
長浜市内の小学生4~6年120名で組織された調査隊が7年前より川の中の生き物の調査活動を行なっているが、今回市制50周年記念事業「環境フォーラム」でその結果を発表する。

9. **'93海までとどけ山の都ふれあいコンサート** 100,000円
('93山の都ふれあいコンサート実行委員会:山梨県甲府市)
国際障害者年を機に同じ社会に生きる人間同志として、障害者と健常者とのふれあいを深めるために、障害者、健常者から詩を募りアマチュアによる作曲でアマチュアバンドに演奏を依頼し、来場客との交流を図るミニコンサートを行なう。

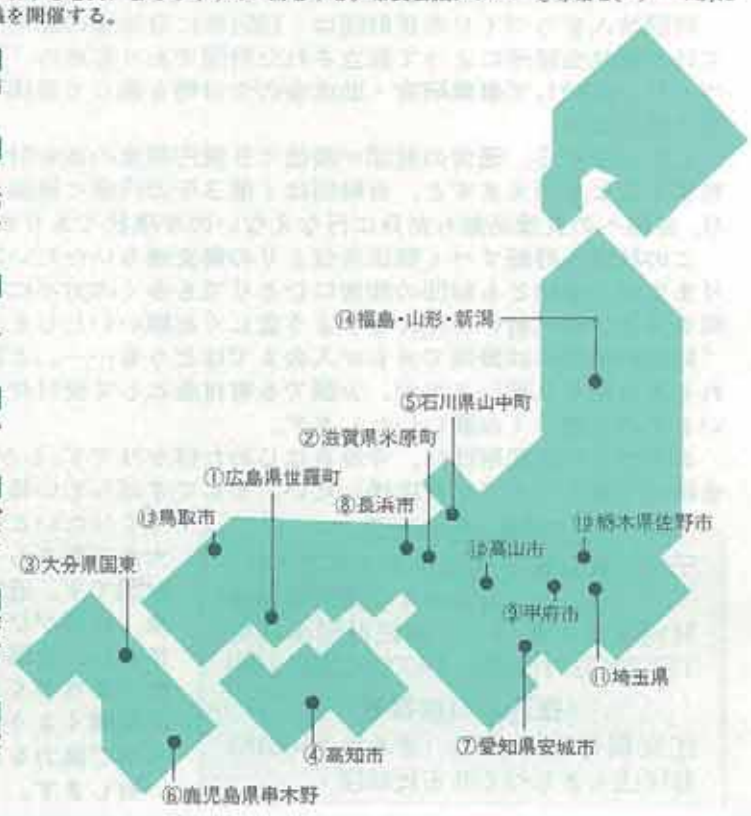
10. **「栃木文化のまちづくりネットワーク」設立シンポジューム** 100,000円
(栃木文化のまちづくりネットワーク:栃木県佐野市)
昨年「第2回文化の見えるまちづくり全国大会」が当地で開催されたのを機に設立された当団体の設立記念としてシンポジュームを開催し、継続性ある活動へとつなげる。

11. **「私たちの高崎線」利便性向上事業**(日本青年会議所埼玉ブロック協議会:埼玉県) 100,000円
民営化後のJRへ快適性、利便性等を要求することにより、県北部地区の広域まちづくり運動とする。利用しやすい高崎線に向けてJRに要望を出し、市民各層の賛同を得る。

12. **飛騨地域広域シンポジューム'93「躍進する飛騨を創ろう」**(㈳高山青年会議所:岐阜県高山市) 100,000円
個々の事業を具現化するためには飛騨地域の各自治体、各種団体が将来のビジョンを共有し、広域的な視野のもとで協力しあうことが重要であると考え、行政マン、まちづくり団体の方々と共に空港誘致、地方拠点整備法等についてシンポジュームを開催。

13. **(仮)日本海ラインシンポジューム**(㈳鳥取青年会議所:鳥取県鳥取市) 300,000円
第4次全国総合開発計画見直しの今、敦賀から下関迄の30青年会議所理事長が集い、日本海沿岸の地域連携軸の必要性を確認し、国土庁に対し五全総の中に均衡ある国土開発をめざし、21世紀における西日本海沿岸の位置付けを提言する。

14. **太平洋と日本海を結ぶ道路シンポジューム**(日本青年会議所福島、山形、新潟ブロック協議会) 500,000円
21世紀に向かってますます道路交通問題は大きな問題としてクローズアップされております。会津地区は、現在建設中のいわき市と新潟市を結ぶ磐越自動車道と整備中の121号線とのクロスの場所となり、全国の道路問題並びに福島、山形、新潟3県にとっても意義のあるシンポジュームになると確信する。



特　集
“がんばっています”まちづくり
平成5年第1期助成金交付団体より

外国人問題から私達自身の問題へ

山梨外国人人権ネットワーク
オアシス　代表者　田々谷　雅　夫

この度、財団法人まちづくり市民財団より私達山梨外国人人権ネットワーク・オアシスの活動に対して、多額のご助成をいただき、一同大変感謝しております。

私達の活動主体を「オアシス」とさせたのは、ちょうど砂漠の中の水と憩いの場であるオアシスのように、山梨県内で厳しい労働に従事したり、人間としてごく基本的な人権さえ踏みにじられている外国人労働者に、支援と癒しの場であるようにと願ってのことです。まだ、昨年の10月24日に発足したばかりで、会員数は今のところ約50人です。

私達は、設立総会を開催する以前から、さまざまなかたちでテレビドラマのような救出劇を演出せざるを得ませんでした。県内に不当に監禁され、強制売春させられているタイ女性を無事本国に送還したり、最近の不況の影響か、激増している外国人労働者賃金不払いの企業と交渉したり、適切な医療を受けられない人々に入院の手続きをとったり、さまざまな対応を、それこそ寝ずの対応をしてきたのです。

けれども、そういう実践の裏付けとして、私達自身がさまざまな経験を受け、かつ山梨県民の皆さんに広く状況を認識し、理解・協力していただくためのPRが大切であることは、十分認識しつつも、経済的理由からなかなか手を広めることができませんでした。

（私達のオアシスの平成4年度決算額はわずか130万円でした）

今回、幸い助成をいただいて、本年度は県外からも講師をお呼びして、定例的なセミナー、フォーラム、講演会などが開催できる見通しとなりました。私達の活動はより拡大し、より多くの外国人問題に取り組める基盤が、お陰様で確立しつつあります。

私達の活動は、あくまでも心豊かで真にボランタリーなものであり、決して政治的・宗教的動機などに基づくものではありません。かつ、このオアシスは、決して営業的なお助け寺さん作っておけばよいというものでもありません。高齢化と、高度の経済成長の中で外国人問題は、実は私達自身の問題でもあるのです。これからもぜひ皆さんのご理解・お力添えをよろしくお願いいたします。

ドンドコドコドン／打吹童子ばやし
まちおこしで　それ！それ！それ！

打吹童子ばやし振興協議会
事務局長　村　田　達　実

倉吉には、天女伝説があります。

その昔、倉吉の地に天女が舞い降り、2人の子供を産みました。天女は音楽が好きで、子供達に音楽を教えました。そして、楽しい年月が流れ、天女は天に帰る時がきました。天女は羽衣をまとい天に帰っていきました。子供達は、母である天女を慕って高くの山に登り、天女の好きだった音楽・太鼓や笛を打ち吹きました。そしてこの山を打吹山（ウツブキヤマ）と呼ぶようになりました。

このように天女伝説が音楽で終っているのは倉吉が唯一で、打吹山は、町中にもかかわらず、今でもたくさんの原生林を残す、神秘の山とされています。

古くから打吹山を仰ぎ、その城下町として栄えた倉吉。この山ふるさとに伝わる天女と童子の物語を「打吹童子ばやし」という形にして、これからのわが町を担う子供達の心のふるさとづくりを目的に子供達の演奏するウキウキする打囃子の音で、倉吉の打吹天女伝説そして打吹山をふるさと自慢として伝えていこうと活動しています。

演奏するのは、小学校5・6年生で総年会員数は、現在約300人です。

今、天女伝説によるまちおこしが、大きく動いています。

アースデイつくば'93をおえて

アースデイつくば実行委員会
氏　家　陽　子

今日、自然のもつ回復力、浄化能力の何百倍もの速度で人類は自然環境を汚し、破壊しつつあります。この地球は私たちだけでなく、次の世代も引き続けなければならないのです。地球は未来の世代から預かっている星なのです。とりわけ、私たち大人のひとりひとりの行動が地球の未来を決定づけるところにきています。惰性のまま動くのではなく、地球にやさしい選択、自然を大切にする方向への転換が今、求められています。

また、私達は日頃、自分たちがう意見ややり方、自分たちがう人々に対して、警戒心を持ってしまいがちです。非難したり、軽蔑したりすることにエネルギーを使うこともあります。しかし、こうしたちがいを、多様性を、いかしあい協力しあう方向に転換することができれば、素晴らしいパワーがうまれます。

ヒクティスパズルのように、バラバラだったかけらも、まのつなぎかたによって、一枚の意味のある絵になるのです。その絵は、世界に向かってメッセージを発信します。

大地よ、ありがとう！地球よ、ありがとう！大地がいつまでもあたたかく育んでくれますように！地球がいつまでも青い地球でありますように！世界から餓えや戦争がなくなりますように！みんながそうありますように！

アースデイに参加するということはそういうことなのだと思います。青い地球・美しいふるさと未来に手渡すために何かをしている、名前も知らないどこかの国の誰か、を想像するだけでも明るい気持ちになれます。世界中でアースデイに参加しているたくさんの人々と、同じ願いを共有し、実際に手紙を交換しなくても、地球愛のメッセージを交換し、互いに発見つけられる、グローバルな取り組みであります。

アースデイつくば'93は、市民、学生、行政、団体、企業などの輪ひろい協力により大きな成果をおさめることが出来ました。

皆様のご尽力にこころから感謝と感謝の気持ちを伴げないと存じます。

ありがとうございました。

来年も、たったひとつの地球を愛するたくさんのあなたとアースデイでお会いしましょう。

今年の事業費は170万円にのぼり、寄付は四苦八苦。地元のつくば青年会議所に何度も資金協力を願うが、対応は絶望的。頭が走げそうなくらいに悩んでいた時、財団から20万円の助成決定の報。躍り上がって、なかまたちに電話・ファックスし、喜びと安堵を分け合ったのでした。本当にありがとうございました。

「九州はひとつ　マラソンリレー」を終えて

第11回日本青年会議所九州地区協議会
九州交通システム推進委員会
委員長　大　賀　量　稔

私たちの住む九州は、豊富な国土資源や海洋資源、温暖な気候に恵まれ、先端技術産業の立地を展開するなど、今後の発展の可能性の高い地域であります。しかし、現状では首都圏に比べ高速交通体系の整備が立ち遅れ、又、九州の中でも西九州軸と東九州軸との整備の不均衡などにより、「広域経済圏九州」の確立を遅らせております。

例えば、北九州市・福岡市・熊本市・鹿児島市を結ぶ西九州軸は、返年「都を残し」かなり整備されているのに対し、北九州市・大分市・宮崎市・鹿児島市を結ぶ東九州軸はかなり悲惨な状況であり、私たちのゆとりある生活をも阻害しております。このような現状の中で、21世紀に向けて活力ある豊かな九州を目指すには、「まず道づくり」だと考えます。また、九州は一つひとつが、素晴らしい個性を持った地域の集まりです。したがって今後は全体の連携を一層強めるよう努力しながら、個々の特性を伸ばしていけるよう「九州はひとつ」の計画を推進すべきなのです。

この企画は、九州全域28青年会議所6,500名の全員が、「九州はひとつ」の理念のもと思想を越えて九州を真にひとつのグランドとして考えることを目指し、共に支え合ってそれぞれが生かされるという発想のもと価値観を共有し、その実践運動のひとつとして「東九州自動車道早期実現」に願いを込めて、「九州はひとつ“マラソンリレー”」の実現となりました。

まさに今年度、九州地区協議会会長の現場である「福元年」にふさわしい事業となったわけであります。

4月26日、かんかんと照りつける日差しの中、北は北九州市役所、南は鹿児島市役所を市長様をはじめとする皆様、そして地域の方々、又多くのJCメンバーに見送られながら、同時スタートし、東九州軸およそ631kmを、ちょうど中間に位置する宮崎県延岡市のゴール目指して、一般の市民ランナーが「東九州自動車道早期実現！」への願いを込めたタスキを力強くつないでゆきました。途中、沿線ロムの絶大なる協力・九州全域のJCメンバーの力強い応援をいただきながら、練実にタスキをつないでゆき、各市町村役場においては、首長様からの激励のメッセージを手渡され、又心温まる励ましの言葉も頂戴いたしました。

3月31日には、天気もくずれ、どしゃ降りの中、市民ランナーも減をくいしばって走り、沿道で見守るたくさんのJCメンバー、一般市民もずぶ濡れになりながら走り、そしてランナーを精一杯応援いたしました。

そして、最終日、ゴールを目前に控え、北ルートのスタッフも南ルートのスタッフも、同時ゴールを参見て、疲労困憊した体にムチを入れました。延岡市役所へのゴールでは、雰化成の宗像さんや、谷口浩美さんも応援にかけつけ、ランナーとして力走を見せてくれました。

最終ランナーの子供たちがゴールした瞬間、九州全域から集まった数千名のJCメンバーは、感動の渦につつまれ、大きな歓声がわき起こりました。こうして、「九州はひとつ“マラソンリレー”」長かった4日間は無事幕を閉じたのでした。

最後に、この「九州はひとつ“マラソンリレー”」を終えて、大変お世話になった約1,000名にも及ぶ一般市民ランナーの方々、又約100通にも及ぶ、激励のメッセージをくださった首長様をはじめとする各市町村役場の方々、そして九州全域から集まってくれたJCメンバーみんなに感謝いたすばかりであります。

そして、この事業を一つのステップとして、これからも「九州はひとつ」の理念のもと私たちは、走り続けてゆきたいと思います。

●入会のお願い

財団法人まちづくり市民財団は、1991年に自治省の認可を得て日本青年会議所によって設立された財団であり各地の「まちづくり」に対して事業研究・助成金の交付等を通じて支援を行なっています。

しかしながら、通常の財団が最低で5億円程度の基本財源を有することを考えますと、当財団は1億3千万円余と貧弱であり、各地への支援活動も充分に行なえないのが現状であります。

この状況を好転すべく関係各位よりの御支援をいただいておりますが、今後とも財団の趣旨にひとりでも多くの方々に御賛同を頂き、御入会いただけますよう宜しくお願いいたします。「財団の趣旨には賛同できるが入会まではどうも……。」と言われる方もあると思いますが、少額でも寄付金として受け付けていますので宜しくお願いいたします。

まちづくり市民財団は、今歩きはじめたばかりです。しかし、全国の「まちづくり」を応援したい、そしてすばらしい日本をつくりたいという大きな夢をもった財団です。近い将来、財団がひとり歩きし、全国各地の「まちづくり」が花開くよう皆さんのご協力をお願い致します。

お問い合わせ先

〒102 東京都千代田区平河町2-14-3
日本青年会議所会館内
財団法人まちづくり市民財団事務局
TEL03-3234-2607　FAX03-3265-2409

〈振込み口座番号〉
住友銀行麹町支店／普通預金960483
財団法人まちづくり市民財団

●財団では、こんな活動も行なっています。

1. まちづくりサロン～霞倶楽部～の開催

当財団では、全国のまちづくり携わる方々に集まっていただき、気軽に語り合える場として、「まちづくりサロン～霞倶楽部～」を行っています。

本年は、3月、4月、7月に開催（年内にもう一回予定）し、講演会や会員の事例発表等を混じえて、まちづくり全般について広く交流を深めております。

まだスタートしたばかりで、限られた方にしかご案内できていませんが、この輪が広がり、皆さんが気軽に当財団にお越しいただけるように今後とも気楽な形で開催していきます。

2. グランドワーク・トラストの研究

まちづくり運動の先進国イギリスには、グランドワーク・トラストという市民団体があります当財団ではこれに着目し、これからのまちづくり運動の在り方を研究しています。

さる6月13日から8日間、阿部理事長を団長とする英国視察ミッションが行われ、各地で展開されているグランドワーク・トラストの活動や運営等につき視察してまいりました。イギリスでは既に長い歴史を持つまちづくり運動ですが、まちづくりの進め方の一つの形として、日本型のグランドワータ・トラストについて研究していく予定です。

3. まちづくりデザイン会議連絡会議の開催

「○○市民会議」「○○市民協議会」「○○委員会」、名称は違っても全国各地にはまちづくりを推進する市民団体があります。これらの団体の情報交換と交流を目指して、まちづくりデザイン会議連絡会議を主催しています。

昨年10月に、函館において第一回の連絡会議を開催し、本年は10月2日、姫路において第二回連絡会議を開催しました。会議では、各団体からまちづくりの成功事例、失敗事例の紹介を含めてさまざまな角度から話し合われました。

今後とも、全国各地で活動されているまちづくり団体相互のネットワークを図り、地域の運動がさらに高まっていくための一助として、今後も各地で開催していきます。